男女にみる結婚観・夫婦像のズレ

（ポーラ文化研究所調査レポートより）

○結婚=男の幸せ…男性50%が肯定
　結婚=女の幸せ…女性では60%が肯定

○結婚へのこだわり少ない30代未婚男性→非婚世代

○理想的な夫婦像

	未婚	既婚
男性	〈分担協力〉	〈夫をたてる〉
女性	〈分担協力〉	〈分担協力〉

○団塊世代の女性…40%近くが〈生き方尊重〉を支持
　↑↓　　〈夫をたてる〉への支持は低い
　団塊世代の男性…30%以上が〈夫をたてる〉が理想

1990/10/8
ポーラ文化研究所

担当　西原・村澤

はじめに …… 元気な女・ふりまわされる男

ボーラ文化研究所では、1989年に「20代シングルのフツーのOLたち」と題して、HANAKOさんに代表される独身OLたちの意識と行動をまとめ、レポートを出したが、彼女たちの、金と時間にモノを言わせてのアクテイブな活躍ぶりが相変わらず喧伝されている。

身を飾る洋服、宝石への思い切った消費は当然のこと、海外旅行やお嬢様ブームを受けてのマナー研修など、金と時間の使い道も多様である。しかもHANAKOさんの関心はこうした「楽しいこと」だけに向いているのではない。

英会話や資格取得、自らのキャリアアップのため、留学や転職することも彼女たちのすぐ手の届くところにある。

そういう中で彼女達のパートナーになるはず（?）の男性陣は、もう１つ迫力がない。オンナの子に好感をもたれようと、キレイに清潔になって確かに感じがよくなった。身のこなしやデートでの楽しませ方など、雑誌によるマニュアルが普及しているから人並みはずれて「ヒドイ!」という男はそう見当たらない。

しかし、今年流行したショートパンツからのぞくツルツルに脱毛した脚を見ていると、女性に嫌われたくない、という本音そのもののように思えてくる。

しかも女性達は、やさしい、便利なだけの男（ミツグ君、アッシー君などと呼ばれているそうだ）に飽きて、今度は、強い、できる男がいいと言うのである。
男性側はこの要求に応えることができるだろうか。

一方、長年、夫を立て、黙々と夫に仕えた妻が夫の定年を機に離婚を申し立てるなどという事件もよく耳にする。夫の方は寝耳に水である。

男女のおもわくというのは、いつの時代も行き違うものだろうが、本レポートでは結婚観、夫婦観について、両者の感覚の違い、ズレを探ってみた。

この報告書は以下の3本の調査レポートの一部をもとにまとめたものである。

「年齢別に見た女性の意識と行動'87」 ……以下、「女性'87」
「化粧文化白書'88」 …… 「白書'88」
「年齢別に見た男性の意識と行動'89」 …… 「男性'89」と略す。
（本調査はそれぞれ3年ごとに行ない、経年変化を追うことにしている。）

調査概要

「女性'87」

調査地域 …… 東京駅30キロ圏
調査対象抽出法 …… エリアサンプリング法
調査方法 …… 個別訪問面接聴取法
及び留め置き法の併用
調査期間 …… 1987年8/29～9/15
調査対象者 ……16～18‥‥100人
19～23‥‥150人
学生‥‥81人
一般‥‥69人
24～29‥‥150人
未婚‥‥71人
既婚‥‥79人
30～36‥‥100人
37～40‥‥100人
41～49‥‥100人
50～65‥‥100人
計 800人

「白書'88」

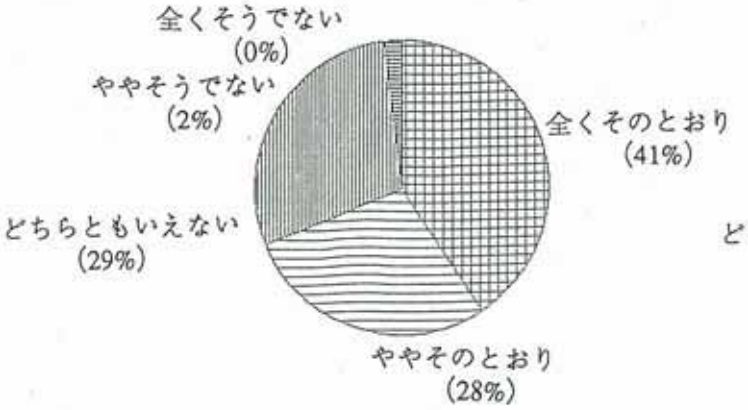
調査地域 …… 東京駅30キロ圏
調査対象抽出法 …… エリアサンプリング法
調査方法 …… 個別訪問面接聴取法
及び留め置き法の併用
調査期間 …… 1988年5/14～5/25
調査対象者 ……18～19‥‥100人
20～24‥‥150人
25～29‥‥150人
30～34‥‥150人
35～39‥‥150人
40～44‥‥150人
45～49‥‥150人
50～54‥‥100人
55～59‥‥100人
60～64‥‥100人

「男性'89」

調査地域 …… 東京駅30キロ圏
調査対象抽出法 …… エリアサンプリング法
調査方法 …… 個別訪問面接聴取法
及び留め置き法の併用
調査期間 …… 1989年8/21～9/4
調査対象者 …… 高校生‥‥75人
大学生‥‥75人
20～29未婚‥‥75人
20～29既婚‥‥150人
30～38未婚‥‥150人
30～38既婚‥‥100人
37～40‥‥100人
41～49‥‥100人
50～65‥‥100人
計 750人

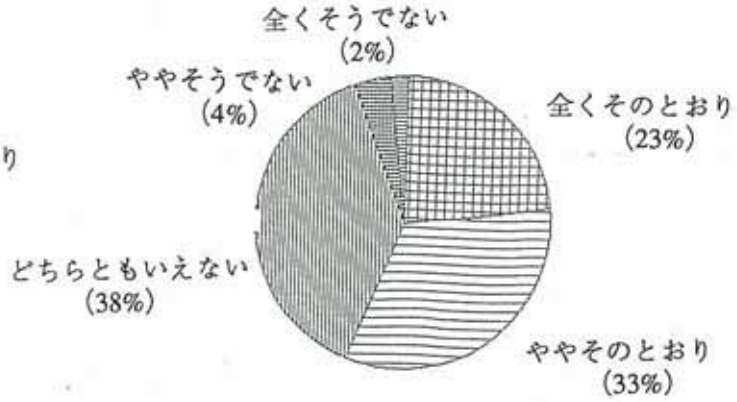
1.男（女）に生まれて幸せと思うか？

男に生まれて幸せ?　「男性'89」



グラフ1

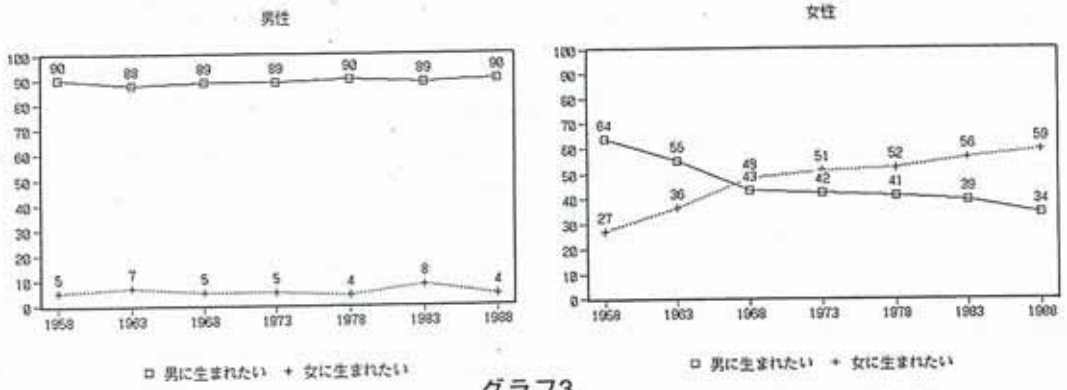
女に生まれて幸せ?　「白書'88」



グラフ2

何を幸せと捉えるかは男女により、また個人により、違いがあるだろうが、その感じ方の差が上図のように表われている。
男に生まれてよかったと幸せを実感している男性は41%、「ややそう思う」も含めると69%、10人に７人がそう答えている。（グラフ１）
女に生まれて幸せと思う女性は23%、「ややそう思う」も合わせると56%である。（グラフ2）
「全くそのとおり」の回答数を男女比較してみると、両者の意識の違いが読み取れる。女性に比べ、男性は「疑いない肯定」をしているのである※1。「文部省統計数理研究所」の『日本人の国民性調査』にこの傾向をよく表わす調査データがある。

●もしも生まれ変われるとしたら……



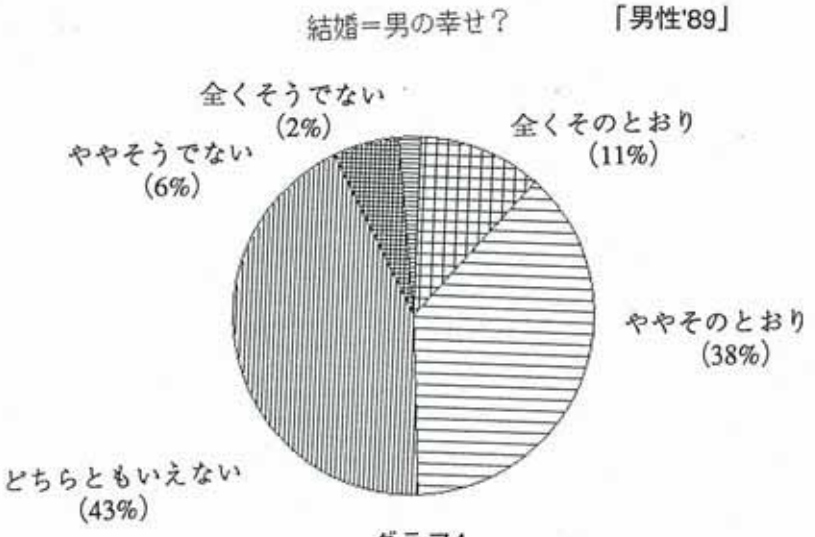
グラフ3

文部省統計数理研究所　『日本人の国民性の調査』

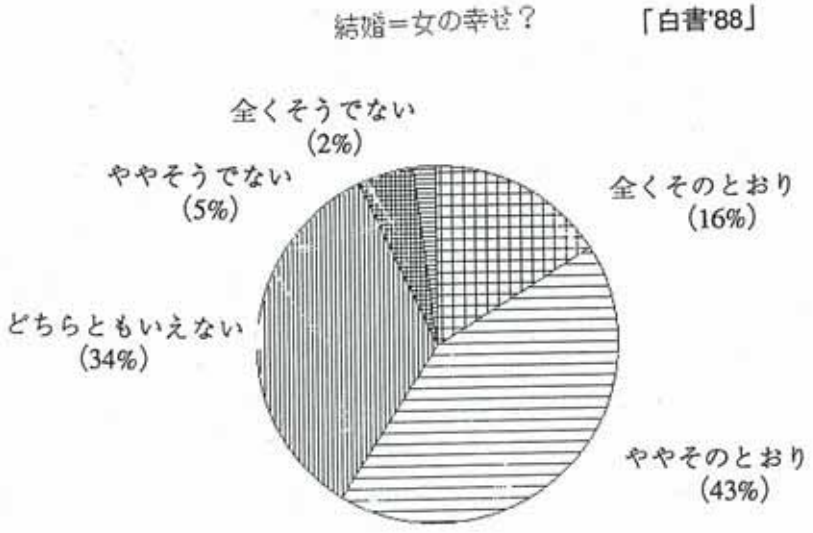
男性の考え方はほとんど変化がない。一方、女性は1960年後半を境に意見 を逆転させており、さらに、この差を広げている。

※1　男性の価値観、意見が30年間変わらないのに対し、女性たちの変化はダイナミックであり、１つの大きな方向性をもっている。ウーマンリブなどと世間で騒がれる前から「今度も女に生まれたい」という願望が脈打っていたともとれる。また、この《逆転》がさらに広がってきていることは、現代の元気な女性の姿をよく映すものといえよう。換言すると、女性たちは「男になど生まれたくない」と明確な選択をしているのである。

2.結婚＝幸せの条件？



グラフ4



グラフ5

男性では50%弱が、女性では60%弱が結婚＝幸せと捉えている。
肯定意見は女性の方に多い※2。（グラフ4および5）

「どちらともいえない」という未知数の回答は女性では3割強、男性では4割強を超える。

※2 グラフ5の結果を未既婚別に探ってみる。「白書'88」によると肯定的な意見は、「ややそのとおり」も含め〈未婚者〉では65%なのに対し〈既婚者〉では58%である。未婚女性の例として〈学生〉をみると74%と高い率であるのに対し、既婚者の中でも〈専業主婦〉では、わずか48%と最低である。既婚女性は〈結婚＝女の幸せ〉に懐疑的であるようだ。

3.結婚＝男の幸せ…？（年代別）

グラフ6

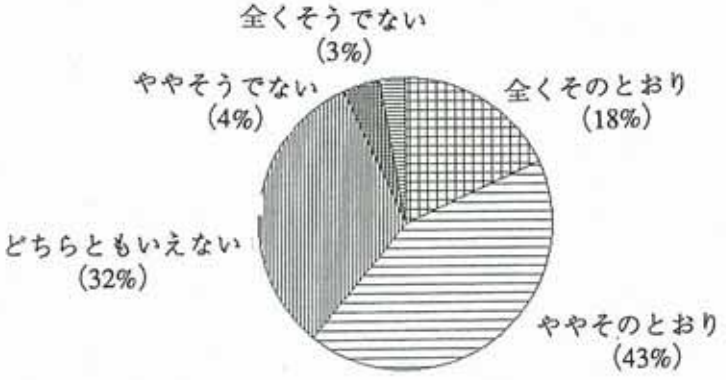
「男性'89」

グラフ4の結果を年代別にみてみよう。
「ややそのとおり」も含め、約半数が幸せと感じているものの、全年齢をとおして「全くそのとおり」と答える男性は少ない。10％前後と10人に１人である。

上のグラフ6を肯定意見に注目してみていくと、同じ未婚者のなかでも大きな違いがみられる。20代の未婚者の55%が結婚に対して肯定的であるのに対し、30代未婚者は40%と、高校性（38%）大学生（40%）とほぼ同スコアである。
この違いは何なのだろうか。

4.「結婚は女の幸せ？」―男性に聞く

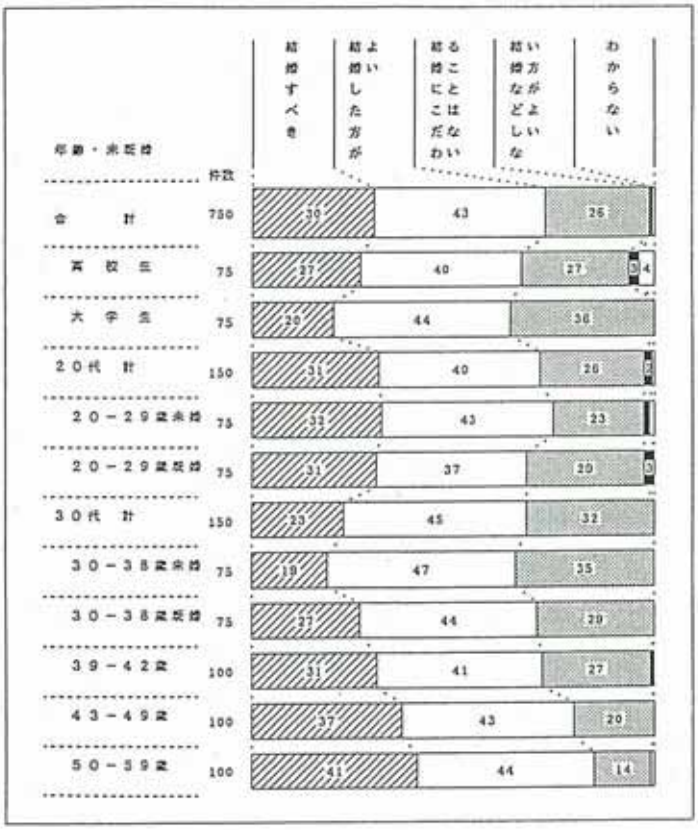
結婚=女の幸せ?　「男性'89」



グラフ7

上のグラフ7は結婚は女性にとって幸せの条件と思うか、男性に聞いたものである。
女性自身が感じている結果のグラフ5と非常に似ているのはおもしろい。

5.結婚へのこだわりは？……グラフ6からみるように、結婚は男の幸せを強く規定するものではないという傾向がうかがえる。では男性自身、結婚をどう考えているのだろうか。



グラフ8

「男性'89」

結婚すべきという男性は全年代計で30%、３人に１人である。
結婚した方がよいを加えると73%、ほぼ４人に３人が結婚に対して積極的。

結婚すべきという回答をみると、30代未婚者が大学生と共に極端にスコアが低い。20代未婚男性が32%であるのに対し、20%を割っている。これは前述の〈結婚は男の幸せか〉グラフ６（20代未婚55%→30代未婚40%）と同様の動きである。
20代未婚男性に結婚を肯定的に捉える人が多いのに対し、30代未婚男性の場合〈結婚＝男の幸せ〉とは思っていない割合が高い。結婚にこだわることはないという回答も30代未婚と20代未婚とでは、35%、23%と開いており、30代未婚男性の結婚へのこだわりのなさが読み取れる。
これをあきらめ、開き直りとみるべきか※3。
結婚に対して甘い夢や期待を抱くこともなく、一種さめた目で結婚をとらえ、独自の結婚観をもっているようにみえる。

↓

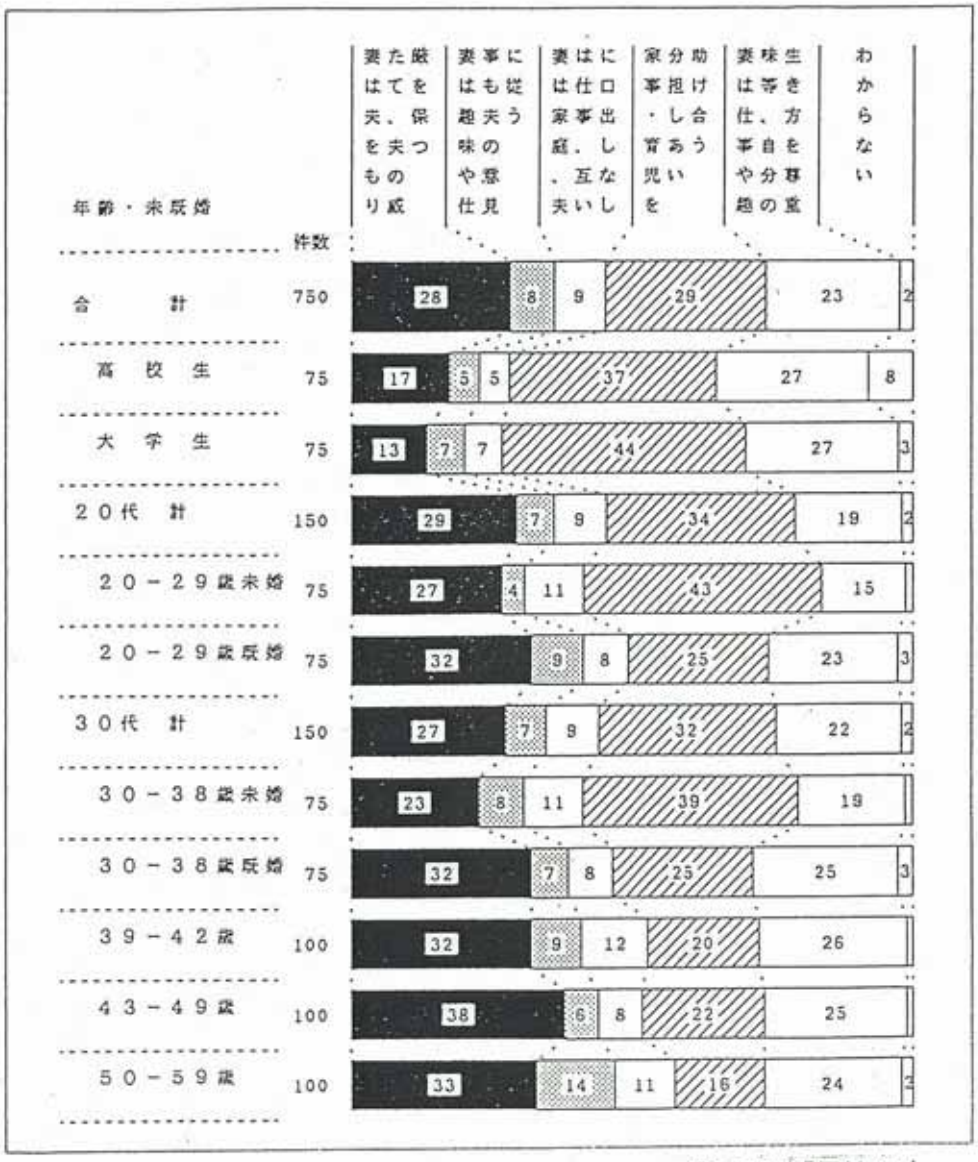
30代未婚者は〈未婚〉ではなく〈非婚〉世代?!

※3 世間で噂される、可処分所得の多さを武器に自由を謳歌するヤングエグゼクティブ、あるいは、高い入会金を払い結婚相談所を訪れてもなかなか配偶者がみつけられないといった話が妙に現実味を帯びてくる。

6.理想的な夫婦像 ……男女の結婚観の違いを比較してみたが、それでは両者が考える理想的な夫婦とはどんな関係だろうか。まず男性を見てみよう.

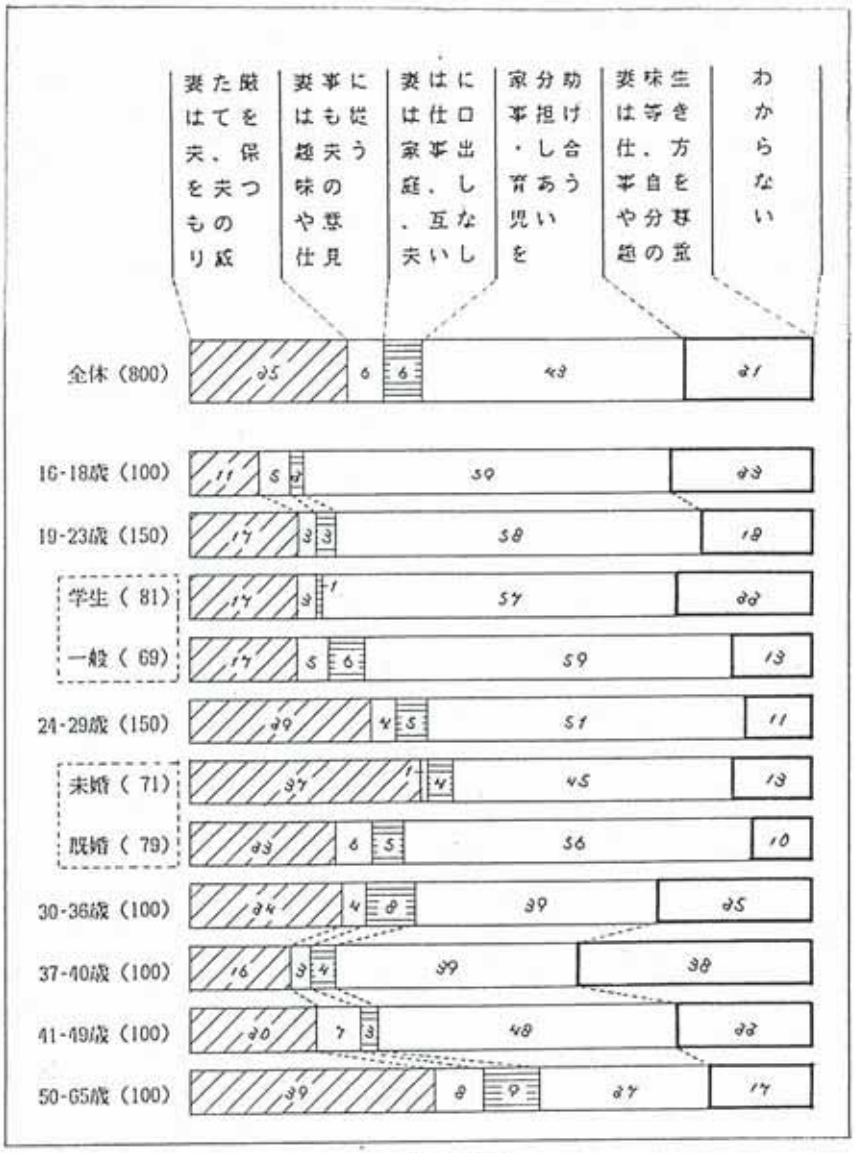
夫婦像のパターンを、以下の5つに分類して考えている。

1.〈夫をたてる〉…妻は夫をもりたてるように気を配り、夫が一家の主人として威厳を保てるようにする
2.〈夫に従う〉 …妻はなるべく夫の言うことに従うようにし、自分の趣味や仕事も夫の意見に従ってする
3. 〈無関心〉 … 妻は家庭を守り、夫の仕事には口をはさまないようにし、夫も家庭のことには口をはさまないようにする
4.〈分担協力〉 …妻と夫は、家事や育児を分担しあって、互いに相手の仕事や活動を助けるようにする
5.〈生き方尊重〉…妻はいつも夫に従うのではなく、自分の趣味や仕事に打ち込み、自分の生き方を大切にする



グラフ9 「男性'89」

次に女性からみた理想の夫婦像をみてみよう。



グラフ10　「女性'87」

◎男性では〈分担協力〉タイプが29%、〈夫をたてる〉が28%とほぼ同率である。〈生き方尊重〉タイプがそれに続いている。（23%）
それに対し、女性の回答では〈分担協力〉タイプが43%と群を抜いている。〈夫をたてる〉〈生き方尊重〉タイプがそれぞれ25%、21%と続いている。

男性女性共に、最も高い支持を得たのは〈分担協力〉タイプであるが、年齢、未既婚別にみていくと、各グループでの理想像が大きく変わっていることに気づく。

○高校生、大学生など若年層では、〈分担協力〉タイプの比率が高い。
これは男女ほぼ同一の傾向である。〈夫をたてる〉〈夫に従う〉〈無関心〉といった関係は支持が低い。

○ところが20代に注目すると、男女差、未既婚による差がみえてくる。男性では〈夫をたてる〉が既婚者で増え（27→32%）※4、女性では逆に〈夫をたてる〉が既婚者層で大幅に減少する（37→23%）※5。
そのネガとして、男性の場合既婚者では〈分担協力〉タイプが大きく減り（43→25%）※4、女性では支持が増えている（45→56%）※5。
このあたりは、いかにも実態に即した数字といえよう。

※4 これはある意味で"古典的"な男の理想ともいえよう。
「オレを立ててくれ」「オマエは勝手にやればいい」といった男の独り言が聞こえてきそうな気がする。

※5 〈夫をたてる〉が20代未婚者で37%、50～65才の39%に匹敵する高い割合をもっているのが興味深い。これが既婚者になると23%、およそ3分の2に減っている。

「結婚前は、両親世代の価値観の影響を強く受けるが、結婚後は、家事分担し、協力し合う家庭を志向する」
「夫を立てる（養われる）生活も悪くない、頼もしい夫をもちたい、しかし現実一緒になった男とは共同生活者（パートナー）として暮らす」
といった解釈もできようか。

○30代では、女性の未既婚別のデータはないが、20代に比べ〈分担協力〉タイプが減り、その分〈生き方尊重〉タイプが支持を集めている※6。

○30代男性も、20代と同様〈夫をたてる〉を未婚者より既婚者は支持している（23→32%）。また、〈分担協力〉への共感は既婚者では減っている(39→25%)。

○団塊の世代はどうだろうか。男性の場合、特に際立った特徴はない。全年齢中でも〈分担協力〉タイプの支持は低く、口出ししないという〈無関心〉派を含め、ぼんやりとした輪郭である。

○それに比べて同じ団塊の世代でも女性の方ははっきりした形が読み取れる。
全年齢中〈生き方尊重〉タイプが際立って高く※7、最も少ない20代既婚者と比べると4倍近いスコアである。また、〈夫をたてる〉への支持が低いことも特徴的である。

※6 30代になると、子育て繁忙期も一段落し、主婦としての能力も高くなって、余裕が生まれてきていると予想される。そんな中で「家事育児を手伝ってほしい」という〈分担協力〉タイプよりも「自分の生き方を探したい、大事にしたい」という〈生き方尊重〉タイプの方へ変わってくるのも当然かもしれない。この傾向は、いわゆる団塊の世代を中心に30～40代に顕著である。この世代は「オレを立ててくれなんてとんでもない！」と考えているようである。

※7 それに対し、彼女たちの結婚相手と思われる男性の考え方はどうだろうか。グラフ9に見られるように43～49才では「オレを立ててくれ」が、トップである。何年も共に暮らしてきたはずの夫婦の間に決定的（?）な意識のズレがあるのが興味深い。

○40代は男女共に団塊の世代にみられる傾向と類似している。

○50代男性では〈夫をたてる〉〈夫に従う〉といった威厳ある夫の像が浮かんでくる。必然的に〈分担協力〉志向は全年齢中、最も低い。（16%）
女性でも〈夫をたてる〉〈夫に従う〉という傾向が強い。男性同様〈分担協力〉タイプは最低である。

終わりに

結婚観と夫婦観について男女比較を行なった結果、各年代、また結婚する前も結婚後も、それぞれ意識の違いが存在することが明らかになった。結婚も人間関係のひとつである以上、そこにズレが存在することは当然であり、これが今日の離婚率の高さに通じるものなどとは言い難い。が、現在、男女共に晩婚化し、あるいは非婚時代などとも言われる中で、夫婦のお互いのおもわくがこれからどう変わっていくのか、また、男女の関係や役割がどうなっていくのか興味深い。

また結婚に続く問題として、家庭や子供のことも考えていく必要があるだろう。当研究所の調査も男・女をテーマに続行し、経年変化を追っていくこととしている。